

進捗状況の概要 【1ページ以内】

立命館大学理工系3学部（理工学部・情報理工学部・生命科学部）・3研究科（理工学研究科・情報理工学研究科・生命科学研究科）は、産学国際協働PBL（Problem/Project Based Learning）を通じて、日印の相互理解を深め、真に国際的視野を持った高度理工系人材の育成を図ることを目的に、平成26年度より事業を展開している。

1. 平成26年度 事業初年度として、平成27年度から各種プログラムを展開するための諸準備を行った。

(1) 推進体制の確立

本事業を実施するために、事業計画を策定し、計画遂行に責任を持ち、事業展開を図る主体として、実施主体である3学部（理工学部・情報理工学部・生命科学部）共同で推進委員会を設置・開催した。また、事務局の一員として本事業に専念し、関係大学等との連絡や外国人留学生への英語対応等を行う契約職員（専門職）1名を雇用、さらに、本事業における主として教育プログラムの開発・実践（特に、国際産学協働Project /Problem-Based Learning: PBL）および学生の派遣・受入等を職務とする教員募集を行い、教授（任期制）1名を任用した（平成27年4月1日着任）。加えて、構想の実施、達成・進捗状況を検証し、次年度以降の改善をはかる仕組みを構築することを目的に、外部評価委員会を設置。事業申請者である学長を委員長とし、企業関係者2名、大学関係者1名を外部評価委員として招聘した。

(2) 派遣・受入プログラム実施に向けた協議

相手大学である、インド工科大学ハイデラバード校（IITH）、ニッテ大学、シンビオシス国際大学との間で、①日印の状況やニーズ、②それぞれの国や大学が求める人材育成像の刷合わせ、③平成27年度より実施するプログラムの実施日程・人数・プログラム内容、等について協議を行い、方向性を確認した。

(3) 短期受入・派遣実績

- ①受入：ニッテ大学より2名の大学院生を受入、本人の研究テーマをもとに研究を進めるとともに、本学学生との交流を図った。
- ②派遣：シンビオシス国際大学に2名、National Institute of Technology Karnataka に1名、合計3名の学生をインドに派遣し、各自の研究を進めるとともに、受入先大学の教員・学生と交流を進めた。

(4) 事業広報

事業略称（**RiSE I≡J Project Ritsumeikan University Science and Engineering India-Japan Project**）、キャッチフレーズ（いざ行かん！インド留学で見つける新しいワタシ MAKE THE FIRST STEP TO JAPAN EXPLORE YOURSELF!）やロゴを作成するとともに、専用HP [URL:http://www.ritsumei.ac.jp/reinventindia/（日本語）、URL:http://www.ritsumei.ac.jp/reinventindia/en/（英語）] を開設し、積極的に広報を行っている。

2. 平成27年度

(1) 推進体制 平成26年度に確立した推進体制のもと、事業展開を図っている。

(2) 各種派遣・受入プログラムの実施

①RU-IITH産学国際協働PBLプログラム

本学学生10名、IITH学生10名 合計20名が、各大学2名計4名で1グループを形成し、チームごとにインドの課題（水、交通、災害、エネルギー、ヘルスケア）解決に取り組むPBLを行った。日本人学生にとっては、インド人学生とチームで課題に取り組むことにより、課題解決能力や英語でのコミュニケーション能力の向上、異文化理解の進展につながった。さらに、自身の課題を認識し、今後の成長の糧となった。一方、インド人学生にとっては、日本の科学技術や日本人の物事の進め方を学び、解決策を導き出すことができた。プログラム終了後も交流は継続しており、平成28年度派遣学生への支援・つながりが可能となる体制ができています。

②シンビオシス国際大学IT研修プログラム

本学学生20名を派遣し、高度なオブジェクト指向設計を英語で学び、調査・研究成果を英語で発表した。グループのメンバーで分担してこれらに取り組むことによって、専門知識だけではなく、コミュニケーション能力、英語で発信できる能力やチームワーク力等の育成にも寄与した。また、NGO訪問やホームステイを通じて、インドの文化・経済に触れ、広い世界観を醸成することができ、学生の視野を開き、能力の向上と成長につながった。

③研究派遣プログラム

6名の大学院生を3校（IITH 4名、シンビオシス国際大学1名、ニッテ大学1名）に派遣し、現地の指導教員・学生とともに、研究を深めた。また、今後につながるネットワークを構築することができた。

④研究受入プログラム

合計13名のインド人学生（IITH 4名、シンビオシス国際大学8名、ニッテ大学1名）を受け入れた。学生は、本学教員の指導を受けながら、自身の研究を進めた。また、日本の企業訪問を通じて、最新の日本の科学技術の一端こふれることができた。滞在期間中には、日本語・日本文化講座を実施したことから、簡単な日本語を使えるようになり、また日本の文化を学び、親しむことができた。

⑤JDプログラム開発

本学とIITHとの間で、大学院博士課程後期課程にJDプログラムを設置するために議論を開始した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成26年度				平成27年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
5人	3人	10人	2人	30人	36人	15人	23人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。